

令和4年9月1日（木）

吉川市立南中学校だより「南風」

第5号

学校教育目標

よりよく生きる

南中学校

☎：982-1066

さわやか相談室

☎：981-8749

ホームページ

：http://02.yoshikawa-ed.net/minami/



R4.9.1 現在	学級数	生徒数
1 学 年	4	1 4 7
2 学 年	5	1 6 0
3 学 年	4	1 5 7
特別支援	5	2 9
合 計	1 8	4 9 3

成長の実感を自信から誇りへ

吉川市立南中学校 校長 福嶋 正悟

7月20日（水）の終業式では、「探求する心」と「思いやりの心」、そして「学び続ける心」を大切にしてほしいと話しました。そして、最後に皆さんの命以上に大切なものはない。496名の生徒が怪我無く、事故なく、病気になることなく、元気に戻ってくることと、校長の話を締めくくりました。そんな1学期の終業式から月日はあっという間に流れ、39日間の夏季休業が終了しました。生徒の皆さん、久しぶりの学校はどうですか。朝はスッキリ目覚めることができましたか。大きな事件・事故の報告はなかったので、全校生徒が無事だったことが一番の知らせです。誰だって、長期の休み明けは生活リズムがつかみにくいものです。しっかりと意識を変えて、学校生活に体を慣らしてください。

さて、9月の巻頭言では、そんな夏季休業中に南中学校の生徒が頑張っている姿に感動したことを書きたいと思っています。多くは県大会に出場した部活動の話ですが、それ以外の活動もあります。ぜひ、全校生徒並びに保護者の皆様、そして、地域の皆様にも知ってほしいと思っています。

県大会のスタートは、7月15日（金）の女子バドミントン部の団体戦でした。正確には夏季休業ではないのですが、県大会は彩の国くまがやドーム体育館で行われました。バドミントンコートが十数面はれる大きな体育館。ドームなので、弧を描く天井が美しい。この場所に立つためには、厳しい地区予選を勝ち上がらなくてはならず、まさに夢舞台。それが県大会。エメラルドグリーンや白のストライプのユニフォームを着た選手は、とてもカッコよく、一進一退の試合展開に一喜一憂した。

続いては、7月17日（日）の剣道部。上尾の県立武道館での団体戦。エアコンが効いた快適な空間に県内の剣士たちが大集合。日本の和の美を意識した大きな会場で、一斉に試合前練習をする姿は壮観そのもの。剣道とは剣の道。礼儀正しい選手に感動。そして、試合は一瞬で決まる。見ている方まで緊張してしまう。全力で戦う選手たち。肩に力が入っている自分に気づく。後日行われた個人戦では、2名の生徒がベスト16に入った南中学校。地区1位の力を存分に見せてくれた。

7月23日（土）は、県大会のダブルヘッダー。彩の国くまがやドームのテニス場で女子ソフトテニスの個人戦。そして、彩の国くまがやドーム陸上競技場で陸上部の県大会。徒歩で5分ほどの所で2つの競技の試合が行われている。そして、この日の熊谷は暑かった。体温近くまで上昇した気温。空調のないドームのテニスコートも、日差しの強い陸上競技場も、過酷な競技環境。その中で行われる女子ソフトテニス個人戦と陸上男子1500Mと400M。ソフトテニスはファイナルゲームのデュースまでもつれる試合展開。陸上は、自己ベスト更新の期待がかかる。まさに、熊谷は暑かった。

ての県大会。会場全体に独特な空気が漂っていた。しかし、この場に立てただけでも、素晴らしいこと。自分自身が若かったころに卓球部の顧問をしていたこともあり、懐かしさいっぱいの大会となった。

続く7月28日（水）は、男女のハンドボール部。八潮市のエイトアリーナが会場。当日は、ほんの少し外にいてだけで、焼け焦げてしまうのではないかと思えるほど、晴れ渡った夏空。エアコン付きの会場で良かったと、胸をなでおろす。午前中は、女子の試合。午後は男子だ。この日の試合に勝てば、関東大会出場が決まる。まさに天王山。私的な見解として述べれば、中学校の部活動のボール競技で一番激しくコンタクトがあるのはハンドボールではないかと思っている。相手の攻撃を防ぐ際は、前からであれば相手に接触して止めてもいいことになっている。これは、他のボール競技には見られない。また、身を挺（てい）してシュートを打つ空中姿勢は、圧巻そのもの。男女ともに試合の迫力に圧倒される。ましてや、関東大会出場を決める試合。残り10秒間に起きたドラマ。一生忘れられない試合となった。まさに、永遠の10秒だった。

県大会は、運動部だけではない。8月9日（火）は、吹奏楽コンクールの県大会がさいたま市文化センターで行われた。昨年度、全国大会まで出場した南中。後輩たちのプレッシャーは、かなりのものであったはず。演奏順は、最後から5番目と絶好のポジション。夏季休業中に熱心に練習してきたことの集大成。曲は、「弦楽器・打楽器・チェレスタのための音楽」。とても難解で、複雑な曲。中学生がこんなにも難しい曲を演奏するのかと驚く。南中学校の吹奏楽部が新たな次元に達したと感じた。すごい演奏だった。

南中学校の部活の県大会は、吹奏楽部がラスト。大会やコンクールであれば、勝敗や優劣がついてくる。しかし、正直そんなことは気にならなかった。学校の代表として、地区の代表として、県大会という晴れの舞台に立ち、南中の看板を背中にしょって、懸命に頑張る姿。それは、感動そのもの。また、今年は運よく、すべての出場部活の県大会を応援することができた。もちろん、日程の関係ですべての競技とまではいかなかったが、それぞれの会場では、わが子を応援する保護者の皆様とお会いすることができた。部活動の活動は、どうしても保護者の皆様の協力なしにはなしえない。それを実感できたことは、大きな収穫だった。

また、部活動の県大会以外にも、嬉しかったことがあった。それは、8月12日（金）の午後12時30分のこと。吉川市のラジオ放送「金のなまず」に、南中学校の2年生3名が出演し、南中学校を紹介する特別企画が放送された。放送後に録音された音源が学校にもとどくのだが、ぜひ生の放送を聞きたいと周波数を合わせ、真剣にラジオを聴いた。これが、とてつもなくいい！まるでプロのタレントや司会者のような口調で南中学校の良さを語ってくれる。あまりにも出来栄えが良すぎて、指導してくれた先生に、その場で感謝のメールを送ってしまったほどだ。嬉しい誤算とは、まさにこのことだった。

39日間の夏季休業。その中で南中学校の生徒が頑張り、成長したことをいっぱい実感できた。そして、同じくらいに自信と誇りを感じることができた。一年で一番長い二学期が始まる。ぜひ、二学期にも目指す学校像の「成長の実感を自信から誇りへ」を大切に、すべての教育活動を進めていきたいと思っています。

